

☆今月の内容

- 愛知県知事の年頭所感
- あいち産業科学技術総合センター所長の年頭所感
- 「知の拠点」の紹介
- あいち産業科学技術総合センターの組織紹介
- お知らせ

新春を迎えて

あけましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災や超円高による産業空洞化の危機等に直面し、日本全体が閉塞感に覆われる中、「愛知の元気なくして日本の復興なし」と決意し、被災地・被災者支援や景気対策に全力で取り組んでまいりました。

新たな年には、日本中に笑顔と元気を取り戻せるよう、モノづくり産業の競争力強化に向け、航空宇宙、新エネルギーなどの新たな成長分野での産業振興や企業誘致に積極的に取り組むとともに、2月にオープンする「知の拠点」の「あいち産業科学技術総合センター」を活用し、県内企業の技術開発等を後押ししてまいります。

また、「あいちトリエンナーレ2013」や「国連ESDの10年最終年会合」に向けた準備を着実に進めるとともに、リニア中央新幹線開業を視野に入れた地域づくりに力を入れて取り組んでまいります。

さらに、農林水産業の振興やふるさとづくりのほか、県民の皆様の安心・安全を確保するため、防災対策を充実し、福祉、医療等の施策を総合的に推進するとともに、4月に「東三河県庁」をスタートさせ、東三河の特性を生かした地域づくりを進めてまいります。

これらの取組を通じて、「世界と闘える愛知・名古屋」の実現を目指してまいりたいと考えておりますので、県民の皆様の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成二十四年元旦

愛知県知事 大村秀章



新年明けましておめでとうございます。

この度、平成24年1月1日付けをもって、あいち産業科学技術総合センター所長に就任いたしました。新年を迎えご挨拶を申し上げます。



去年は、知事の年頭所感にもありましたように、国内では、3月の東日本大震災、東京電力福島原子力発電所事故、超円高や海外においては、タイ洪水、欧州のユーロ危機など国内外にて激動、波乱の一年でございました。

今年は、世界経済として不安要素はあるものの、国内における震災復興は徐々に進み始めており、復興需要による国内経済の回復を期待したいところであります。

このような状況の中、日本の産業経済を支える愛知の責務としては、中小企業支援を始めとする県内経済の活性化であります。

愛知が持続的な成長を遂げていくには、「産業技術及び科学技術」の発展が不可欠であり、まさにこの「あいち産業科学技術総合センター」が次世代モノづくりの研究開発拠点として、その役割の一翼を担うものと考えております。

当センターは、平成3年度の科学技術交流センター計画からおよそ20年を経て、ようやく旧産業技術研究所（刈谷市、現在の「産業技術センター」）と統合して実現に至りました。来月14日に産学行政の共同研究施設としてオープンし、高度な計測分析機器による研究開発支援や共同研究開発プロジェクトの推進など本格的稼働をしてまいります。

また、来年度には、公益財団法人科学技術交流財団が運営するナノテクノロジーを用いた研究開発に不可欠な「中部シンクロトン光利用施設（仮称）」もオープンする予定で、当施設では、専門のコーディネータや技術者を配置し、計測・分析の支援や技術課題などのご相談にも応じてまいります。加えて、「知の拠点」での開発技術の成果を中小企業の皆様に普及することも併せて実施することとしております。

当然のことながら、従前からの中小企業の皆様からの相談や依頼業務、その中に含まれている課題の抽出、解決、それをフィードバックすることは、当センターの基盤業務であり、より一層の力を入れ、その役割を果たしてまいりたいと考えております。

当センターといたしましては、愛知の新しい技術のランドマークとして広くPRし、「中部シンクロトン光利用施設（仮称）」とともに認知度を向上させ、県内企業のみならず、近隣地域の企業の皆様にも広くご活用いただき、「世界と闘える愛知・名古屋」づくりの実現に寄与してまいりますので、なお一層のご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成24年1月

あいち産業科学技術総合センター
所 長 中 野 達 夫

「知の拠点」とは

次世代モノづくり技術の 創造・発信の拠点

産・学・行政の連携した「愛知モデル」として、最先端の研究開発環境を備えた拠点を整備。モノづくりのイノベーションの基盤となるナノテクノロジーを核に、IT、バイオも融合した研究プロジェクトを展開し、革新的な製造システム、付加価値の高い製品・素材につながる技術の創造を目指します。



「知の拠点」イメージ図

あいち産業科学技術総合センター

- 中小企業の総合的な支援機関である「産業技術研究所」と、「知の拠点」の先導的中核施設を統合して誕生（平成24年1月）。
- 「知の拠点」の本部では、
 - ・大学の研究シーズを企業の事業化につなげる産・学・行政の共同研究プロジェクトを実施します。
 - ・中堅・中小企業に対して、製品化・事業化に向けた研究開発から試作まで支援します。
 - ・高度かつ汎用的な計測機器による分析・評価、ソリューション機能により企業の研究開発、製品開発を支援します。
- 県内6ヶ所に配置した各技術センターは、それぞれの分野において、技術相談、依頼試験、研究開発による地域企業支援を実施するとともに、「知の拠点」の研究成果の普及を図ります。

シンクロtron光 利用施設

- ナノテクノロジー分野において電子顕微鏡とともに注目されるシンクロtron光利用施設。
- 産業利用を主目的にした地域共同利用施設として平成24年度中のオープンに向けて準備を進めています。
- 地域の産・学・行政の連携・協力のもと、公益財団法人科学技術交流財団が整備・運営（一部は独立行政法人科学技術振興機構が整備）します。

今後の展開

- 国等の先端研究・実験施設や成果を事業化につなげるインキュベーション施設などの立地、集積を図り、中部地域全体の研究開発の拠点づくりを目指します。
- 研究開発を促進し、企業の製品化・事業化を目指します。

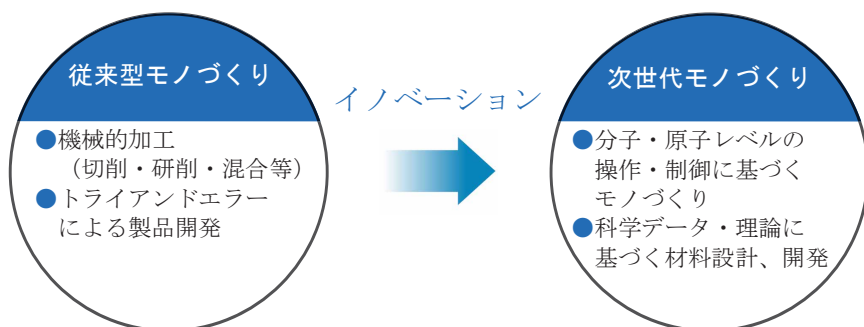
背景

国際的な経済競争が激化する中、経済のグローバル化による海外生産比率の拡大や、人口減少社会、高齢社会の到来による産業の担い手不足の問題など、将来の本県の生産活力の相対的な低下が危惧されています。

そうした中で、この地域が今後も世界をリードするモノづくり拠点として、その活力を維持・発展させていくためには、モノづくりを支える科学技術＝「知」の絶え間のない革新が必要です。

そして、それを成し遂げるには、大学等の研究成果をモノづくりにつなげる「橋渡し」＝「産・学・行政連携による共同研究開発」が不可欠であり、それを実現するソフト・ハードにおけるインフラづくりが重要です。

モノづくりのイノベーション（今を越えるモノづくりの鍵はナノテクノロジー）



これまでのモノづくりは、ミクロン単位（千分の1ミリ）の技術を達成してきました。しかし、これからのモノづくり、つまり次世代モノづくりにおいては、従来技術の限界を超える、ナノレベル（100万分の1ミリ）での技術革新が求められています。今後のモノづくり産業のイノベーションを支える基盤となる技術は、ナノテクノロジーです。「知の拠点」では、このナノテクノロジーを核に、IT技術、バイオ技術を融合した研究プロジェクトを、産・学・行政が共同して展開していきます。

お問い合わせ先・アクセス

〒470-0356 豊田市八草町秋合1267番1

TEL:0561-76-8301 FAX:0561-76-8304

HP:<http://www.aichi-inst.jp/acist/>

E-mail:acist@pref.aichi.lg.jp

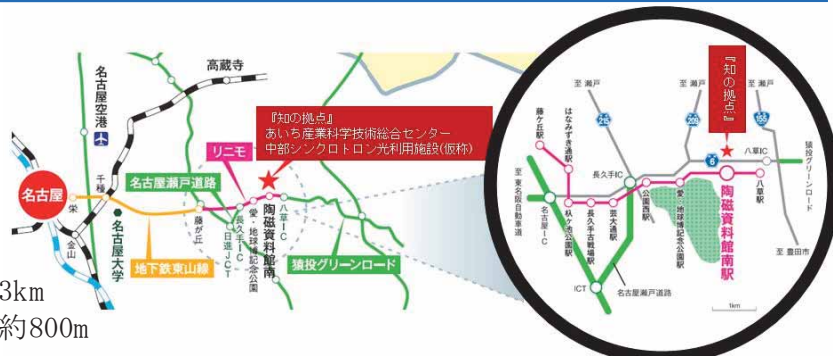
[鉄道]名古屋(地下鉄東山線)

→藤が丘(東部丘陵線リニモ)

→陶磁資料館南(約50分)

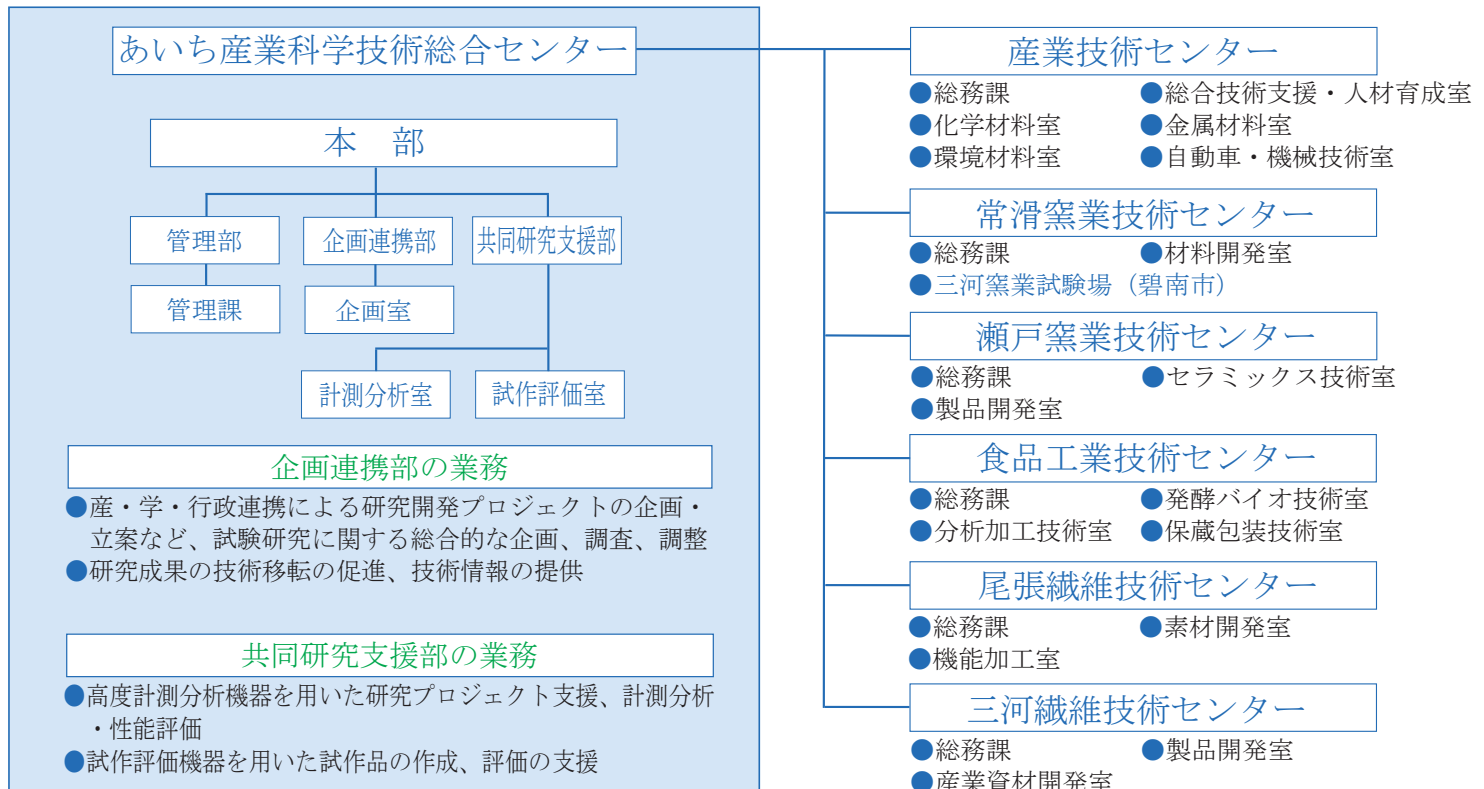
[道路]名古屋瀬戸道路長久手ICから東へ約3km

猿投グリーンロード八草ICから西へ約800m



あいち産業科学技術総合センター組織紹介

[組織]



①産業技術センター

〒448-0013
刈谷市恩田町1丁目157番地1

総合技術支援・人材育成室

- 地域企業の技術開発・製品開発の総合相談窓口
- 各技術センターが持つ技術シーズ等の普及、技術情報の提供
- 中小企業の人材育成支援

化学材料室

- 有機・無機化学材料の開発、分析技術に関する研究
- プラスチック、ゴム、セラミックス、光触媒等に関する技術指導
- 依頼試験（材料強度試験、耐候性試験、成分分析等）

金属材料室

- 鋳造技術、溶接技術、表面改質評価に関する研究
- 鋳造技術、溶接技術、熱処理、めっき、腐食に関する技術指導
- 依頼試験（材料強度試験、実物強さ試験、耐食性試験、組織試験等）

環境材料室

- 環境負荷低減に配慮した技術に関する研究
- 材料表面改質トライアルコアによるナノ材料の開発支援・評価
- 環境材料分野、包装技術、木材加工技術に関する技術指導
- 依頼試験（包装材料、包装貨物、木質系材料、家具、木製品等）

自動車・機械技術室

- 難加工材料の切削、ロボットの教示方法、燃料電池に関する研究
- 燃料電池を始めとした次世代電池部品の開発・評価
- 次世代自動車の技術講演会、航空宇宙技術者研修の開催
- 依頼試験（精密測定、電波暗室、恒温恒湿槽等）

TEL:0566-24-1841 FAX:0566-22-8033
HP:<http://www.aichi-inst.jp/sangyou/>
E-mail:info@aichi-inst.jp



愛知県技術開発交流センター （産業技術センター敷地内）

愛知県が研究開発、技術交流、情報収集、人材育成のための場を提供する開放型施設で、次の施設を利用することができます。



〒448-0013
刈谷市恩田町
1丁目157番地1
TEL:0566-24-1841
FAX:0566-22-8033

室名	面積 (㎡)	定員 (名)
交流ホール	394	273
交流会議室	190	80
研修室1	227	20
研修室2	111	60
研修室3	97	40
共同研究室 (5)	61	
交流サロン	117	41

名鉄「一ツ木駅」下車徒歩10分、「知立駅」下車タクシー10分
JR「刈谷駅」下車タクシー12分

②常滑窯業技術センター

〒479-0021
常滑市大曾町4-50

- タイル、植木鉢、食器製品の開発・評価
- セラミックス材料の開発
- 瓦、レンガ、植木鉢製品の開発・評価（三河窯業）

TEL:0569-35-5151 FAX:0569-34-8196
HP:<http://www.aichi-inst.jp/tokoname/>
E-mail:tokoname@aichi-inst.jp



名鉄常滑駅より知多バス知多半田ゆき
「窯業センター前」下車徒歩7分

③三河窯業試験場



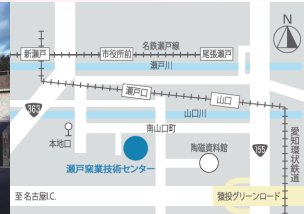
〒447-0861 碧南市六軒町2-15
TEL:0566-41-0410
FAX:0566-43-2021
名鉄「北新川駅」下車徒歩7分

④瀬戸窯業技術センター

〒489-0965 瀬戸市南山口町537

- セラミックス材料の開発・評価
- 和洋飲食器、ノベルティ等のデザインや加飾技法の開発

TEL:0561-21-2116、2117 FAX:0561-21-2128
HP:<http://www.aichi-inst.jp/seto/>
E-mail:seto@aichi-inst.jp



地下鉄藤が丘駅より名鉄バス瀬戸駅前ゆき
又は菱野団地ゆき「本地口」下車徒歩25分
名鉄尾張瀬戸駅より名鉄バス藤が丘ゆきにて
「本地口」下車徒歩25分
愛知環状鉄道「瀬戸口駅」
または「山口駅」下車徒歩20分

⑤食品工業技術センター

〒451-0083
名古屋市西区新福寺町
2丁目1番の1

- 醸造食品、菓子、農産加工食品等の技術開発・評価
- バイオ関連の技術開発

TEL:052-521-9316 FAX:052-532-5791
HP:<http://www.aichi-inst.jp/shokuhin/>
E-mail:shokuhin@aichi-inst.jp



地下鉄「庄内通駅」下車徒歩12分
市バス名駅11号系統又は栄25号系統「上堀越町」下車徒歩3分、
名駅13号系統「鳥見町」下車徒歩6分

⑥尾張繊維技術センター

〒491-0931
一宮市大和町
馬引字宮浦35

- 地域企業毛織物、ニットの製造技術開発・評価
- 染色、整理の加工技術開発・評価

TEL:0586-45-7871 FAX:0586-45-0509
HP:<http://www.aichi-inst.jp/owari/>
E-mail:owari@aichi-inst.jp



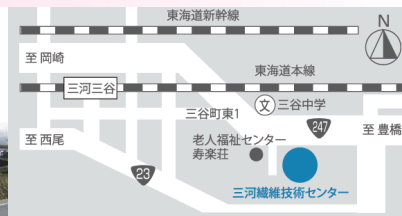
名鉄一宮駅、JR尾張一宮駅より名鉄バスターミナル
2番のりば乗車「繊維センター前」下車徒歩1分

⑦三河繊維技術センター

〒443-0013
蒲郡市大塚町
伊賀久保109

- 綿・合繊織物等生活関連繊維製品の開発・評価
- 海洋・農業・土木・建築等産業用繊維資材の開発・評価

TEL:0533-59-7146 FAX:0533-59-7176
HP:<http://www.aichi-inst.jp/mikawa/>
E-mail:mikawa@aichi-inst.jp



JR「三河三谷駅」下車タクシー5分、徒歩20分

「あいち産業科学技術総合センター」の 竣工式及び記念講演会を開催します！

愛知県では、付加価値の高いモノづくりを支援する研究開発の環境整備の一環として、「知の拠点」づくりを進めています。

このたび、2月14日に当地において、「あいち産業科学技術総合センター」がオープンします。

施設のオープンに当たり、現地にて、竣工式及び記念講演会を開催します。

なお、記念講演会につきましては、広く参加者を募集しています。

■日時 2月14日（火） 13：15～16：30

■場所 あいち産業科学技術総合センター
（豊田市八草町秋合1267-1）

1. 竣工式 13：15～15：00（※招待者のみ。）

◆主な内容

主催者挨拶、来賓祝辞、テープカット、施設内見学

2. 記念講演会 15：30～16：30

◆内容

テーマ：「現代社会と科学」

講 師： 名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構

機構長 益川敏英 氏

◆場所

あいち産業科学技術総合センター 1F 講習会室

◆定員

200名（定員になり次第、締め切らせていただきます。）

◆申込方法

申込用紙に必要事項を記入の上、FAXにてお申し込みください。

詳しくは、HP（<http://www.pref.aichi.jp/0000047702.html>）をご覧ください。

◆その他

記念講演会終了後には、施設内の見学ができます。

※一般見学会は、別に開催を予定しております。

（詳細が決定次第、県HPでお知らせします。）



募集中！
要 申込み



撮影：平成24年1月